PCN PROTECT BASE
使用方法と注意点

PCNプロテクトベース（25g）　一般価格　￥8,750（税別）

硬化時間 LED10秒、UV30秒
オフ時間 カラージェルを取り除き、 ベースジェル表面まで削った場合 約5分

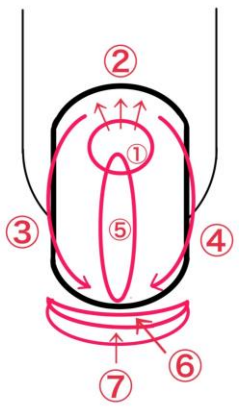
成分：ポリウレタン-98,アクリル酸イソボルニル,ポリウレタン-97,アクリロイルモルホリン,メタクリロイルプロピルトリメトキシシラン,トリメチルベンゾイルジフェニルホスフィンオキシド,ヒドロキシシクロヘキシルフェニルケトン

発売元：株式会社イーシュ　東京都中央区銀座3-17-3

使用方法

１・プレパレーションまで終えた爪に、少量のプロテクトベースを擦り込むように塗布します。（硬化しない）
　爪全体を濡れている状態にすることで、次に塗布するプロテクトベースのレベリングを促し、フォルム形成がしやすくなります。
　そしてプロテケアネイル®はスポンジバッファーで最小限にしか爪を曇らせないので、その毛羽立ちにしっかりとプロテクトベースを入れ込むことができます。

２・１の上に少し多めのプロテクトベースを使ってフォルム形成をします。
　右図のようにフォルム形成をします。
　①のエリアにプロテクトベースを乗せます。
　②根本に向かって、①のプロテクトベースの上澄みをさわるように広げます。
　③④両サイドを先端に向かってプロテクトベースを誘導しますが、時間の経過とともにこのサイドにプロテクトベースが流れることを想定して
　　量を少なめにいます。中央に縦長のプロテクトベースのたまりを作るように動かすことがポイントです。
　⑤中央のジェルをそっと触るように爪先へ誘導します。
　⑥⑦エッジとくるみ塗りエリアに塗布します。（プロテケアネイル®を学んでいない方は、エッジの先端に長さ出しをするような意識で
　　しっかりとプロテクトベースを塗布）
　そして全体的なフォルムを見て、足りないところに線状のプロテクトベースを少量足して形を仕上げます。



３・LEDライトで10秒、UVライトで30秒硬化します。LEDライトでは、光を当てて約2秒後から硬化が始まりますので、仮硬化の参考にしてください。

４・プロテケアネイル®では、くるみ塗りエリアにもしっかりとライトを当てるため、3の後に手を裏返して再度光を当てます。
　一般的なやり方でも、エッジに光が当たらない場合があるので必ず手を裏返して再度光を当ててください。持ちに影響します。

注意点

・他のジェルから乗り換える場合、特に酸の入ったジェルは爪組織の中までからみあうように入っていますので、自爪のように見えてもジェルが残っています。
　その上にプロテクトベースを乗せると、残ったジェルが影響してはじいたり剥がれやすくなることがあります。爪が入れ替わるまで（3か月ほど）、少ししっかりと
　スポンジバッファーで曇らせる必要があります。（これはほかのジェルでも言えることです）
・酸やHEMAの入ったジェル（定着材の入ったジェル）と違い、<u>ネイリストの技術がシビアに影響します</u>。以下の6点に注意してください。
　１・先端の囲みの量と位置　　２・爪表面のネイルケア　　３・十分な塗布量　　４・皮膚漏れがない　　５・立ち上がりの角度を含むフォルム形成
　６・ベースジェル（およびカラージェル）の根元の位置よりトップジェルの位置がオーバーせず同位置に塗布
　この中でも１のプロテケアネイル®のファイリング理論でくるみ塗りエリアを作ることや、６のトップジェルの塗布位置と出来上がり硬度により持ちが変わります。
・ベースジェルの持ちというのは、トップジェルの塗布量や塗布の仕方に影響されます。トップジェルでいかにフォルム形成しながら摩耗から守るかを考えた時に、
　プロテケアネイル®では薄付きのジェルではなく、出来上がりの硬度が高いソフトジェルのスカルプジェルを推奨しています。（ハードジェルは非推奨）
・ベースジェルはどんなジェルも「100%誰でも持つ」ということはありえません。その方の生活環境や体質にも影響されるので、ジェルにも技術にも問題がない場合は、
　プロテケアネイル®の考え方である「爪とジェルをいかに連動させるか」をベースにジェルの変更などを行ってください。
・他社のジェルと併用したい場合、プロテクトベースをフォルム形成ジェルとして使うことができます。

不明な点などありましたら、一般社団法人プロテケアネイル®協会までお気軽にお問合せください。　info@protecarenail.or.jp